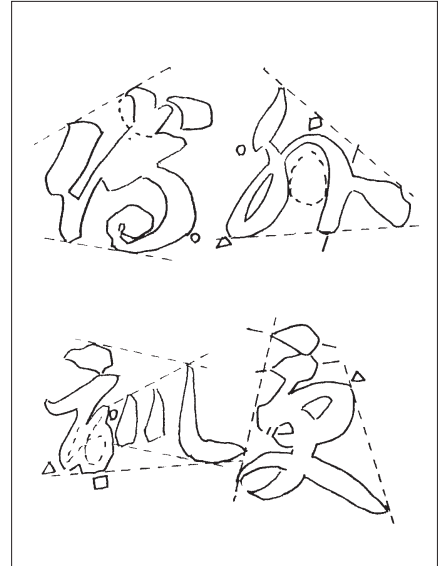


◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料420円

智永 真草千字文



1、字句 外受傳訓

2、形式 半切タテ使用。右に「外受」、左に「傳訓」と臨書し、左余白に落款

「〇〇臨」と調和を工夫して書き入れる。

3、概観 古典を勉強(臨書)しようと思えば、多くは拓本に頼らなければなりません。米芾は「拓本などでは学ぶべきではない。自分の書を人に刻させたが、もう自分の書ではなくなってしまった。真蹟を観ることで本当の趣を知ることができる」と述べています。しかし、真蹟はあまりにも少なく拓本に頼らなければならない現状です。しかるに、この智永千字文は数少ない真蹟のひとつであり、真書(楷書)と草書二体で、しかも千字文という学書者にとってはまたとない古典です。今回で最終回としますが、これを機会に今後是非学び続けて下さい。

4、各字のポイント

外 入筆後〇部で筆を立ち上げ、次画では徐々に押し、後、筆を引き上げ、△部で筆の裏面を使い、□で表面に返す。

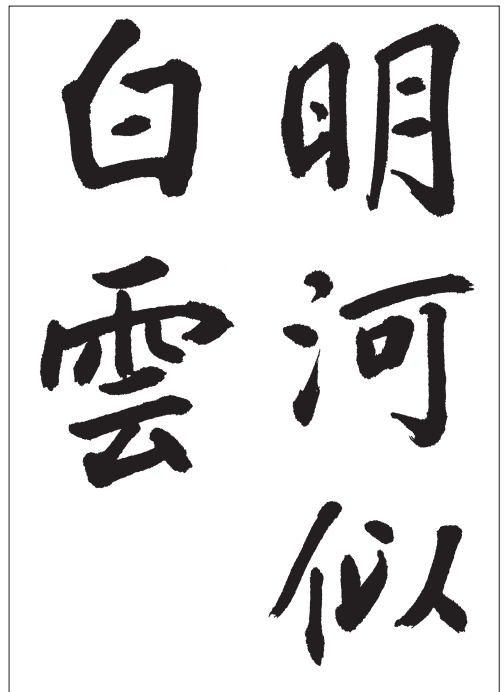
受 二点はふくよかな点だが、方向が異なる。△で少し止まり、弾力を使って運筆。終画は上部とのバランスを考え長めに。

傳 一画目強く入筆・逆筆。払わずに縦画へ。隣の横画二本は方向を変えて。横画から点線のように動き縦画へ。〇部へ向かって押しつけてゆき、引き上げる。

訓 一画目の点は右下に向かって打ち、二画目の横画は、一画目の点の方向に対するように右肩上がり。△部で裏面を使い、〇部で表面。□部で裏面と筆の面を変えてゆく。

半紙課題(予告)

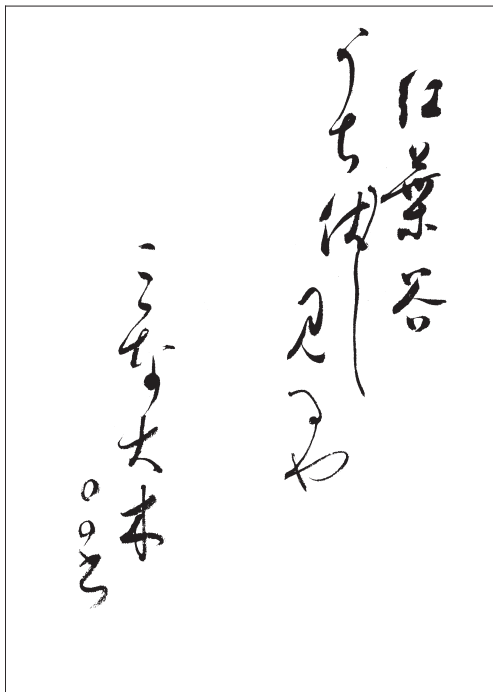
(十一月二十二日締切)



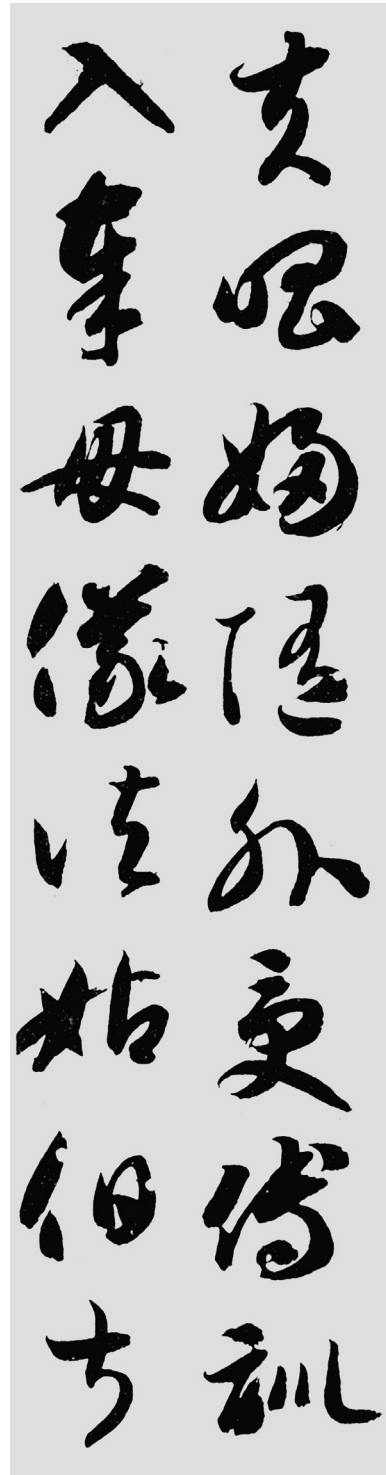
平岡華雪先生書 明河白雲に似たり。(璣徐)

訳：天の川は白雲が流れるのに似ている。

平岡華雪先生書 紅葉谷打伏し見るや皆大木(虚子)



智永 真草千字文



(参考)

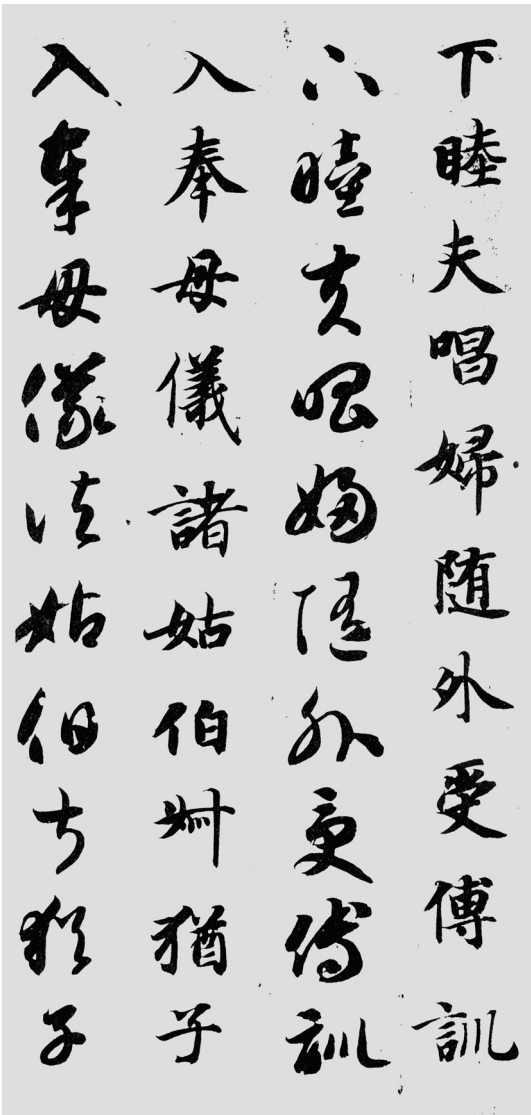
夫唱婦隨。外受傳訓。入奉母儀。姑伯子。

条幅臨書部は半紙臨書部と連動
しています。半紙に取り組んだ
方は是非条幅にもチャレンジし
てください。また条幅だけ出品
も大歓迎です。

▽字詰め自由。

▽落款は「○○臨」と調和を
工夫し書き入れる。

▽出品料五二五円。



◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

A 高橋香樹主幹書

滅却心頭火自涼(杜荀鶴)
心頭を滅却すれば火自ら涼し



B

鈴木静村書

上下の「滅却・自涼」を草書とし、中心の「心頭火」を行書としました。滅 普段一字目は小さく書き出すことにしているが、少し大きめに。却 末筆の縦画を長めに。心 できるだけ扁平に。頭 字幅を取るように。火 少し硬くなったか。自涼 草書で連綿。「涼」は偏と旁の間を広めに。



墨の配分は、四文字とあと三文字。火 で墨継ぎ。滅 戈法で締めたい。却 末画の縦画をのびやかにして心に意連。頭 字幅をとり、豆字を意識して。火 一、三、四画の接筆は窮屈?各自一工夫を。自 一画目の長大は何紹基の手法。涼 偏は反り過ぎ、穏やかにサラリと。訳:心から雑念を取りのぞけば、火もおのずと涼しく感じられてくる。

予告 (十一月二十二日締切)

風搖翠雨香浮席 月送金波影入簾(王雨)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料525円)

A

平岡華雪先生書

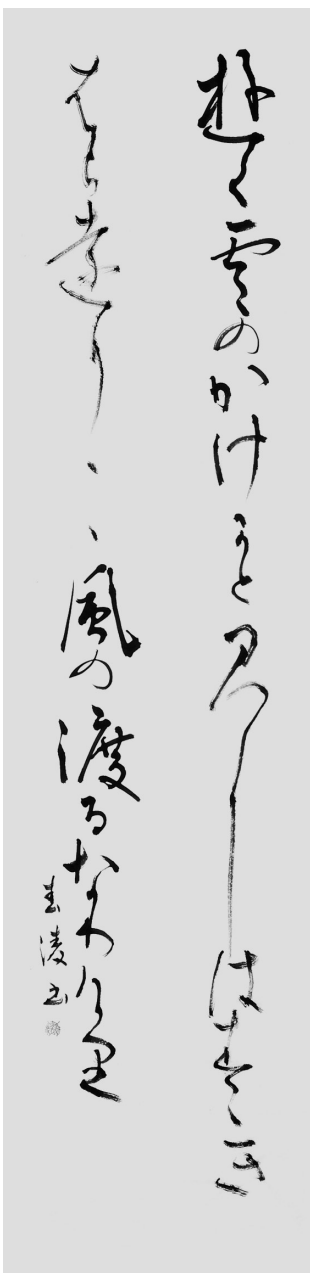
ゆく雲の影かと見しはすゝき原をりをり風のわたるなりけり (入江為守)
 ゆく雲の影かと美しは須ゝきはら越りゝゝ風のわたるなり希り



B

武井春凌先生書

遊ぶ雲のかけ可と見しは春、き者ら遠り、風の渡るな利介



学び方

二行書としました。
 書き出しの「遊ぶ雲」は、墨量を多くし、二行目にかけて渴筆を意識しつつ「遠り、」は、筆先から墨が出てくる迄待つ気持ちでゆっくりと書きます。「風の渡る」で墨を入れ、一行目と二行目の字形の響き合いと、墨色の变化、濃淡の対比に留意しながら作品作りをします。

予告 (十一月二十二日締切)

風さゆるとしまが磯のむら千鳥たちめは浪の心なりけり (新古今和歌集)

正三位季経

入江為守

一八六八—一九三六明治・昭和時代前期の官僚歌人。冷泉為理の三男。入江相政の父。明治三〇年貴族院議員のち東宮侍従長、侍従次長をへて昭和二年皇太后宮大夫。この間大正四年から御歌所所長をかね「明治天皇御集」「昭憲皇太后御集」編集事業を完成させた。昭和十一年三月九日死去。六九歳。京都出身。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料525円)

北沢博舟先生書

夜露無聲衣自濕 秋風有信葉先知（趙甌北）
 夜露声無く衣自ら湿い、秋風信有り葉先知る。

夜露無聲衣自濕
 秋風有信葉先知

博舟

訳：夜の露は音なくして衣服は自然にしめり、秋の風の来れるは木の葉の鳴る音に知られる。

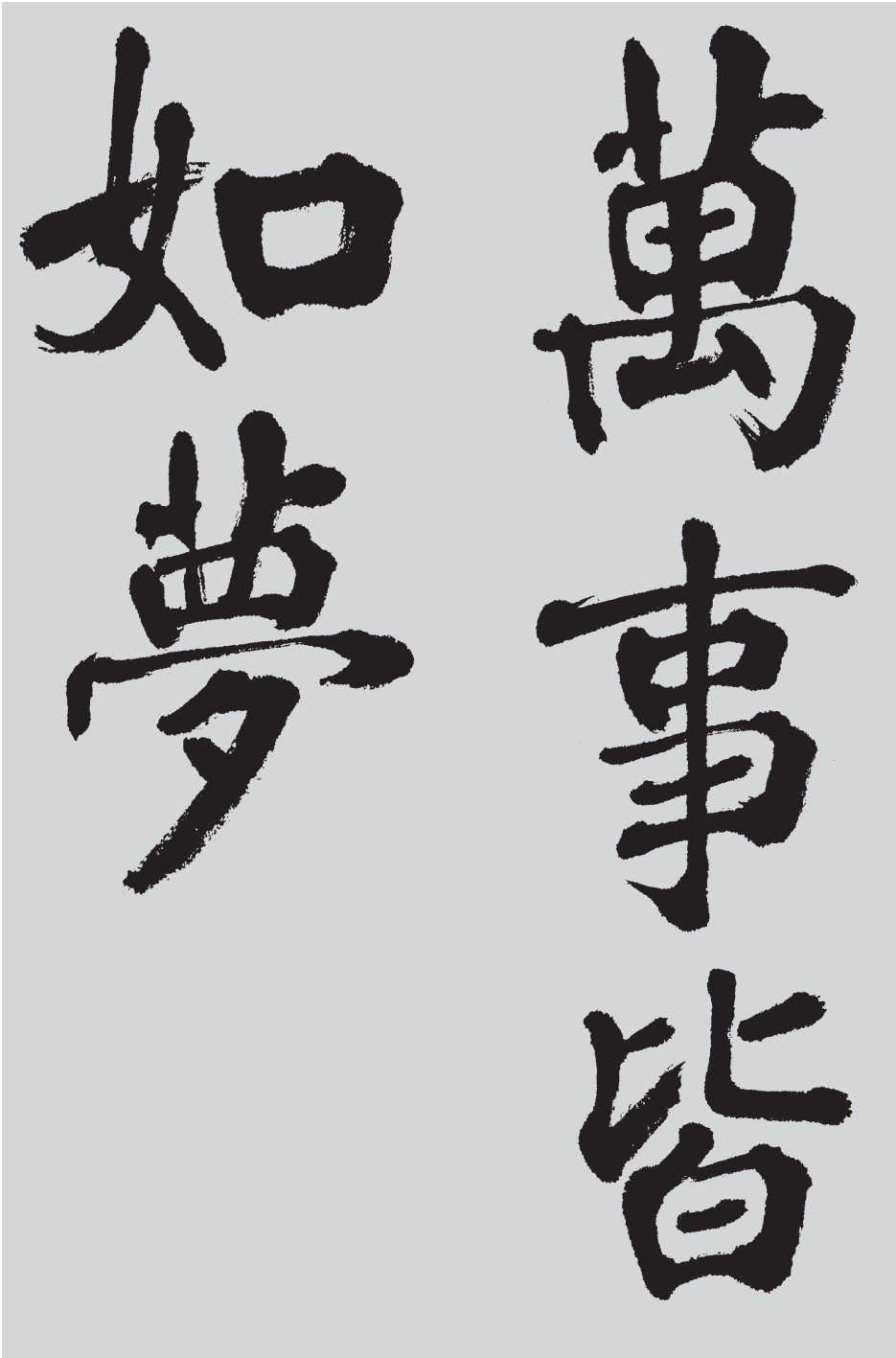
石島柏美先生書

目になれし山にはあれど秋来れば神や住まむとかしこみて見る（石川啄木）
 めになれ志山尔盤あ連と秋久れ八神や住末むとかしこみて見る

目になれし山にはあれど秋来れば神や住まむとかしこみて見る
 めになれ志山尔盤あ連と秋久れ八神や住末むとかしこみて見る

柏美

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料525円）



平岡華雪先生書

萬事皆夢の如し。(菅原道真自詠の一節)
訳：萬事が皆夢のようである。

〈中心となる文字〉

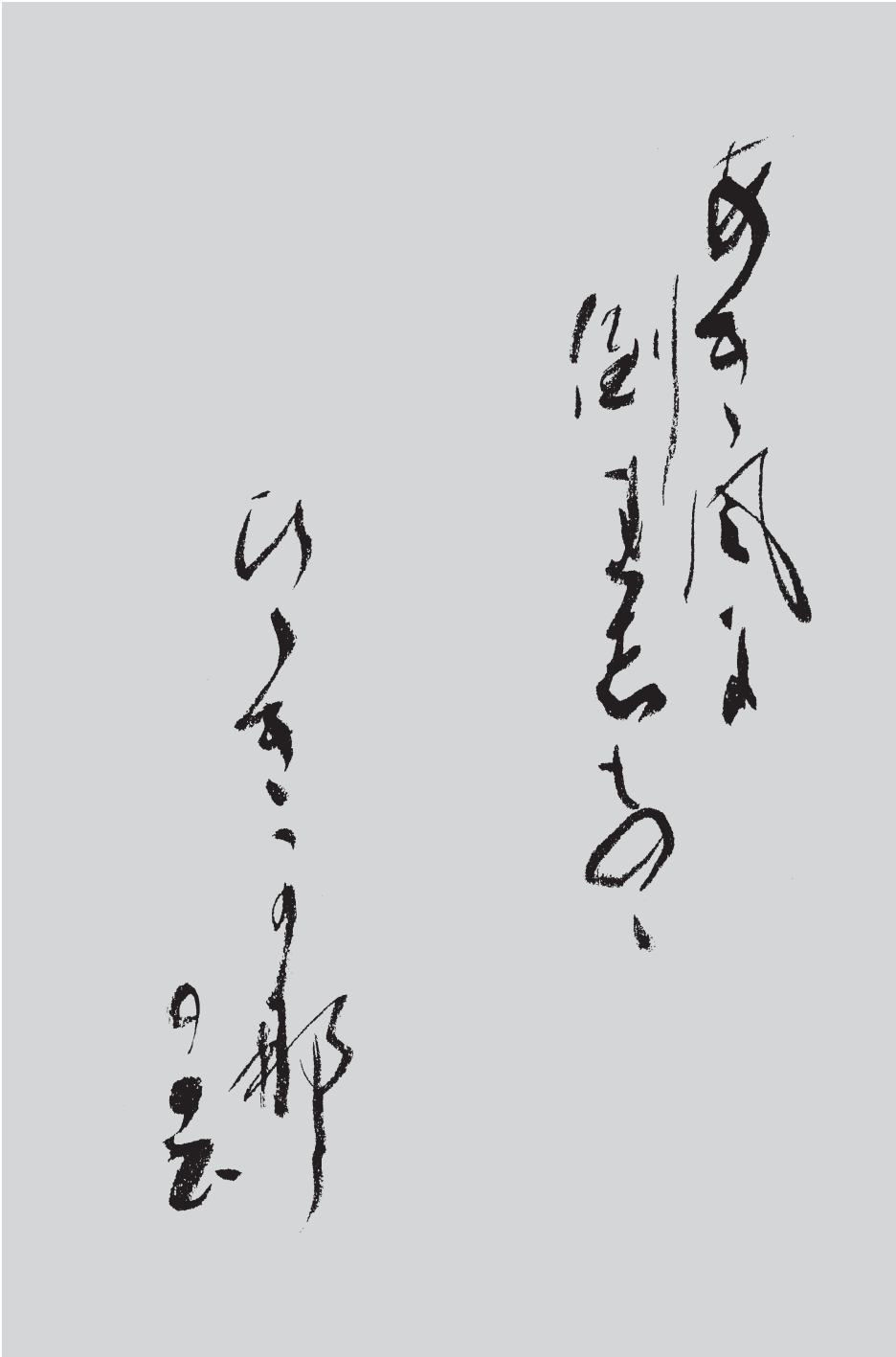
二行それぞれに中心となる文字があります。右行では「事」、中心画は末画です。このタテ画が右行の生命画。左行は「如」、女偏の第一画が中心画。この各ポイントをおさえて、スッキリさせること。「萬」「夢」草冠の縦画上に出す。「事」横画細め「皆」二画目強くハネ上げる「如」の「女」の中は狭く。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は420円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

秋風に倒れしものゝひゞきかな (泊月)
あき風^に尔^に倒^れ連^れ志^しものゝひゞき^{かな}可^{かな}那



〈連綿への意識ポイント〉

「ものゝ」"一字として"とありますが、これに限らず、二字連綿、三字連綿も、同様一字としての意識が大切です。意識的に捉えることが連綿のポイントの一つです。

尔…^りの筆意 連…^れ志…^し

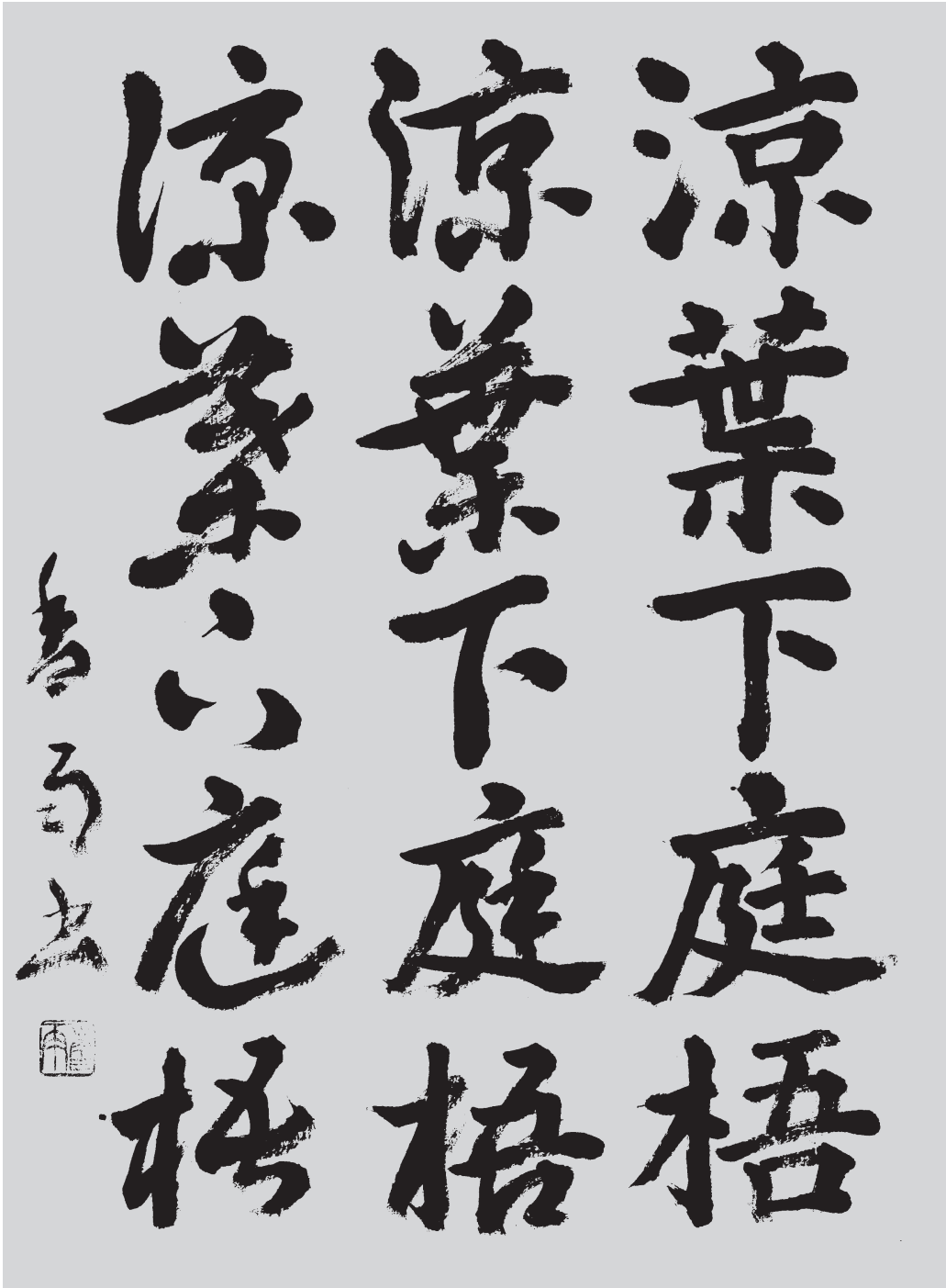
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は420円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三 体 参 考

酒井香雨先生書

涼葉下庭梧（賀數）
りょうようていごくだ
涼葉庭梧に下る。



訳：菊は漸く花が咲き、梧桐はその一葉が落つるのである。


1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は420円。

石田 愁華 先生 書

黄蘆千里月、紅葉萬山霜（謝復）
黄芦千里の月、紅葉万山の霜。

黄蘆千里月
紅葉萬山霜

無善公



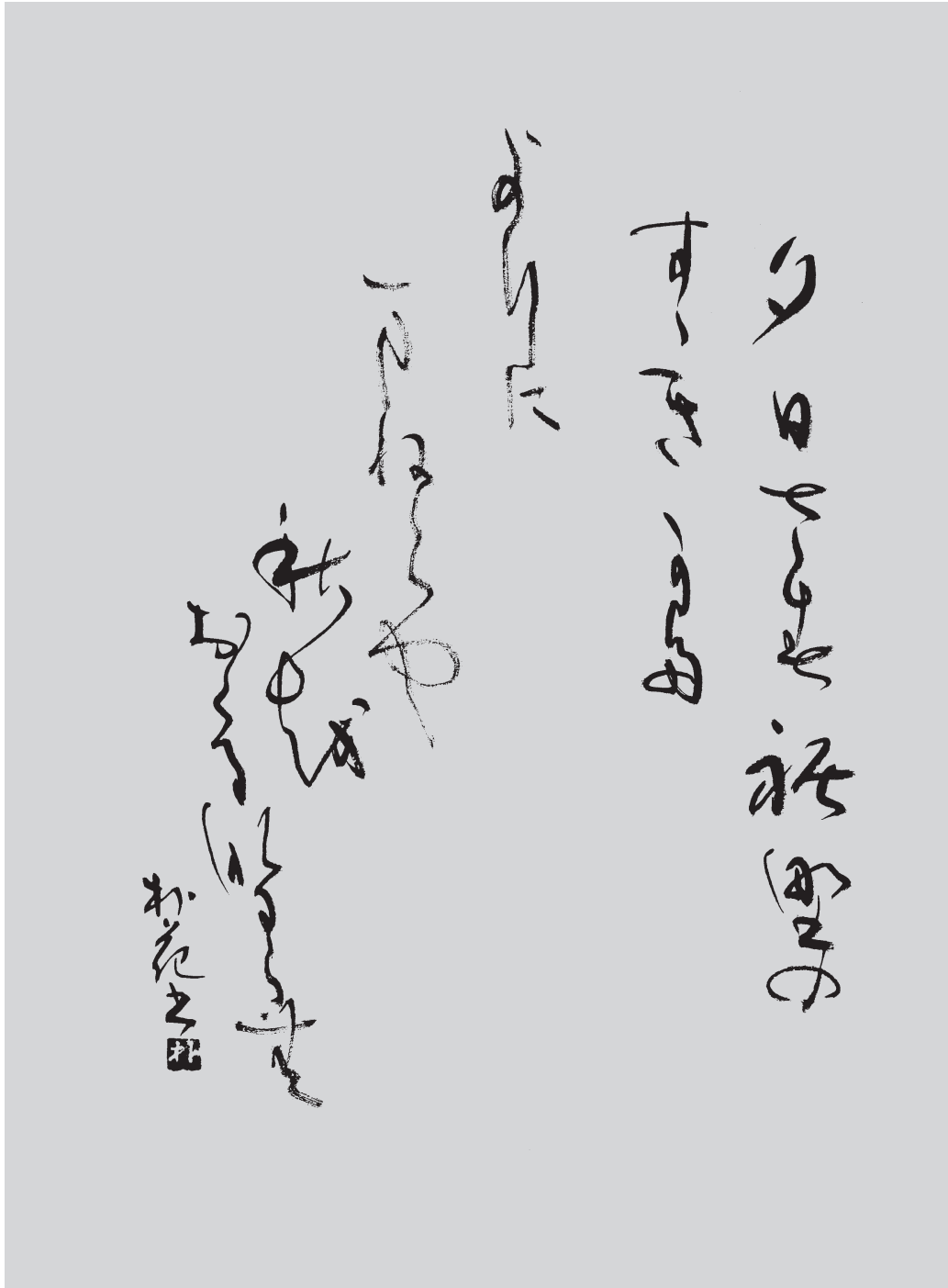
訳：黄ばんだ枯れ芦は千里の月に照らされ、真紅に染め出された葉は万山の霜のためである。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は420円。

向
山
朴
花
先
生
書

夕日^{ゆふひ}さす裾野^{すその}のすすき^{かた}片^{かた}よりに招^{まね}くや秋^{あき}を送^{おく}るなるらむ（後拾遺和歌集）
夕日^{ゆふひ}さす裾野^{すその}のすすき^{かた}多^{かた}よりに万^まね久^{あき}や秋^{あき}越^をお久^くる那^なるら無^む

源頼綱



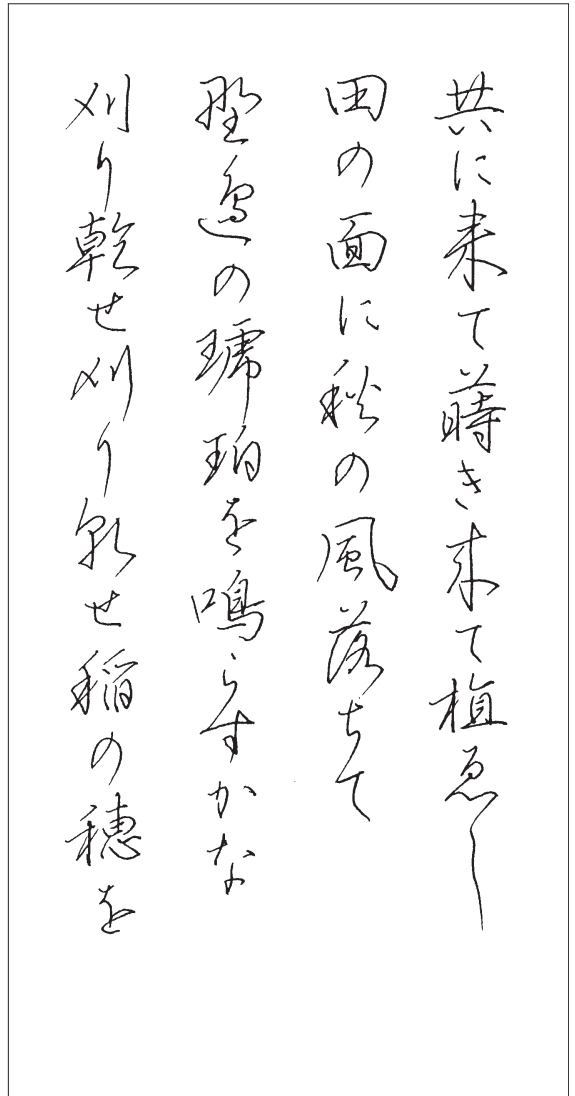
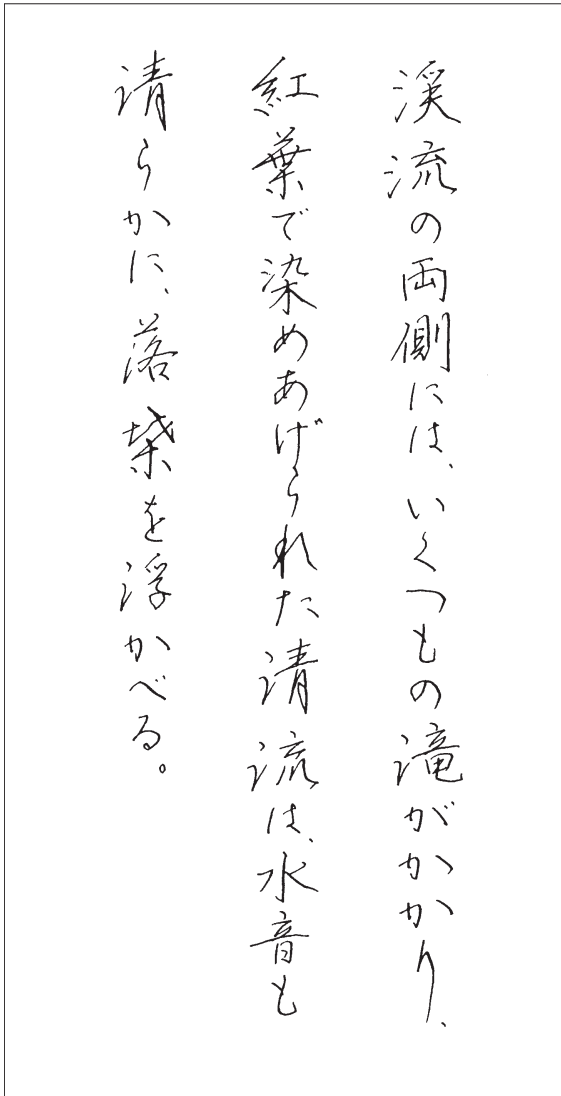
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は420円。

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

共に来て蒔き来て植ゑし
田の面に秋の風落ちて
野辺の琥珀を鳴らすかな
刈り乾せ刈り乾せ稲の穂を

「落梅集」島崎藤村

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四二〇円

課題2 (初段階以下)

溪流の両側には、いくつもの滝がかかり、紅葉で染めあげられた清流は、水音も清らかに、落葉を浮かべる。「紅葉めぐり」奥入瀬溪流

日本交通公社